

日本語学習者の多様性

—第二言語習得の関連領域から学ぶ—

「学習者の言語環境と日本語の習得過程に関する研究」第1回公開研究会

【プログラム】

10:30～10:35 挨拶

10:35～12:00 「第一言語での動詞の発達 実態と説明理論、今後の方向性」
岩立 志津夫(日本女子大学)

12:00～13:00 -昼食-

13:00～14:30 「言語接触と日本語習得」
ダニエル・ロング(首都大学東京)

14:30～15:00 -休憩-

15:00～16:30 「日本手話を母語とする聴覚障害児の日本語習得」
阿部 敬信(別府大学短期大学部)

16:30～17:00 まとめと総括

「多文化共生社会における日本語教育研究」プロジェクト

リーダー：迫田久美子（広島大学／国立国語研究所日本語教育研究・情報センター客員教授）

共同研究者：所内・所外約 35 名

本プロジェクトでは、第二言語習得研究、対照言語学、社会言語学、心理言語学、コーパス言語学等の幅広い学問領域の連携により、「多文化共生社会において必要となる言語運用能力」を中心に据え、多様な視点から第二言語としての日本語の教育をめぐる問題について実証的な研究を行う。実施にあたっては、複数のサブプロジェクトを設置する。

(1) 学習者の言語環境と日本語の習得過程に関する研究（リーダー：迫田久美子）

- A. 「言語環境と日本語習得」班
- B. 「言語転移と日本語習得」班
- C. 「学習者コーパス研究」班

(2) 社会における相互行為としての「評価」研究（リーダー：宇佐美洋）

(3) 「生活のための日本語」の内容に関する研究（リーダー：金田智子）

(4) 日本語の基本語彙に関する研究（リーダー：島村直己）